
開講科目名：租税法研究III演習（4単位）

開設年次：2年

開設学部：法学研究科修士課程法学専攻

担当者：石川 祥浩

《授業の概要》

【授業の概要】

各自が選択した研究テーマについて、テーマ選択者（レポーター）による発表、他の者による質疑、全員による討議を通じて租税法学研究を深めることにより、修士論文のテーマの選定と作成の指導に当たる。

レポーターは、発表に当たり、レジュメを作成する。作成に当たっては、「問題認識（疑問点）、それについての研究・考察過程と自己の主張（結論）」を内容とし、引用した参考文献等について明記する。

論文作成の技法の習得は、レポーターが作成したレジュメを通じて行う。なお、年に数回、他ゼミ生との合同ゼミを開催する。

(2) 研究テーマの選定

税目を問わず自由とするが、大学院生の研究テーマとしてふさわしいものとする。

例）租税実体法と関連法規、課税要件、現行税制の解釈と問題点、経済取引の国際化・高度情報化と税制度、社会福祉と税制度、高齢社会と税制度、税務行政など。

【成績の評価方法】

授業の出席状況、討論を加味して総合的に評価する。

《テキスト》

特に定めない。

《参考書》

金子宏著「租税法」（弘文堂）、金子宏他著「ケースブック租税法」（弘文堂）、谷口勢津夫著「税法基本講義」（弘文堂）

税大論叢・税大ジャーナル、租税関係判例・裁決 ほか